



盆踊りから広がる「輪」と「和」

やりましょう
盆踊り

2013年 実施報告書

やりましょう盆踊り実行委員会

(主催／河北新報社営業本部、運営事務局／河北アドセンター)

やりましよう盆踊り

今年も盆踊りの「輪」から、
各地で多くの再会、
親睦、笑顔が生まれました。

盆踊りで輪をつくり、東日本大震災で犠牲になった方の供養と鎮魂、
そして復興へ向けてコミュニティをさらに結びつける事を目的とした
被災地支援プロジェクト「やりましよう盆踊り」。

開催2年目となった今年は8の自治会・団体から応募が届き
東松島市赤井柳区、東松島市宮戸、名取市美田園、
亘理郡亘理町、石巻市不動町の5ヵ所を選定。

さらに、「やりましよう盆踊りシンポジウム」の開催や本町夏まつりとの合同イベントなど、
7月21日から8月21日までの1ヵ月間、盆踊りの輪を各地で広げました。

各会場いずれも好天に恵まれ、震災で離散した方々の再会、
仮設住居で暮らす方々の親睦、そして明日へつながる元気と活力が生まれ、
大人も子供も笑顔で輝く光景で溢れました。

私たちはこの「やりましよう盆踊り」によって、
新たに結ばれた「絆」をますます強め、復興への力になる事を願ってやみません。

ご協賛を頂いた各社さまをはじめ、

浴衣をご提供頂いた皆さま、踊り手として参加して頂いた皆さま、

盆踊りの運営にご協力を頂いたすべての皆さまに心より御礼を申し上げます。

平成25年9月 やりましよう盆踊り実行委員会
(主催/河北新報社営業本部、運営事務局/河北アドセンター)

本年度の開催日程

「やりましよう盆踊りシンポジウム」

7月21日(日) せんだいメディアテーク

「やりましよう盆踊り」

8月3日(土)東松島市赤井柳区

8月10日(土)東松島市宮戸

8月11日(日)名取市美田園・閑上さいかい市場

8月16日(金)亘理町公共ゾーンふれあいの会

8月18日(日)石巻市不動町

「第33回本町夏まつり」

8月21日(水)仙台市青葉区錦町公園



全国からあたたかい支援が続々と。

浴衣支援

昨年も協力いただいた日本女子大学のネットワークで、同大同窓会「桜楓会」と被服科「衣(きぬ)の会」、千代田区社会福祉協議会、NPO総ぐるみ福祉の会などから約180着が寄せられたほか、やりましたよ盆踊り応援ボランティア東京事務局のメンバーの働き掛けで横浜市立南中学と周辺の井戸ヶ谷、大岡、六ツ川の3小学校のPTAと生徒会が子ども用浴衣145着以上と大人用合わせて約200着を集めてくれました。

被災地の民俗芸能伝承を模索しているジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク (JCDN、本部・京都市) は、イギリスのコミュニティダンスアーティスト、セシリア・

マクファーレンさんからの寄託金で新品の浴衣・帯・下駄のセット16人分を購入。その他、ブログやフェイスブックで見たという全国各地の個人から「思い出深い浴衣だが、役に立つなら」と提供いただきました。

集まった約430着に対し、帯や下駄、着付け用の腰ひもが大量に不足していましたが、河北新報グループの社会貢献組織「かほく108クラブ」から助成金20万円を得て不足品を補充。開催地からの希望枚数に、充実した内容で応えることができました。提供した浴衣はいずれの会場でも大変喜ばれました。



横浜市立南中学校の取り組み

東日本大震災後、横浜市立南中学校では生徒会を中心にさまざまな支援活動を行ってきたそうです。募金活動、使い捨てカイロを石巻の支援の少ない仮設住宅へ送る活動、黄色いハンカチにメッセージを書いて山元町へ届ける活動、エグザイルのライジングサンを東北の中学生と一緒に踊り心を繋ぐという活動など。今回の浴衣集めについては、親にとっては子どもにまつわる思い出の品でもあるため、PTAが中心となって収集。生徒会は回収BOXを

作って周辺に河北新報の記事を貼り、「南中 BON☆盆レポリューション」と題して呼び掛けを行いました。

また、盆踊り会場に「私たちはずっと皆さんを応援しています」という気持ちが届くように、黄色(幸せ色)の大きな布の寄せ書きを作成。夏休み前最後の全校集会で生徒会メンバーが全校生徒の前で黄色い布を広げて、東北の盆踊り会場に送ることをお知らせしました。



寄せ書きは全会場で掲出。横浜市立南中学校の方への感謝の言葉も募り、各会場ですべて掲出されました。

「盆踊り会場で、一人でも二人でも足を止めてメッセージを読んで、明るく前向きな気持ちになるお手伝い如果能したら」と横浜市立南中学校の生徒会が取り組んだ寄せ書き

踊り手ボランティア

踊り手ボランティアは、開催日時に自力で会場へ行き、夏祭りを楽しみつつ、盆踊りが始まる時に率先して輪をつくり、盆踊りを盛り上げる存在。「盆踊りをやりたいが、大勢踊ってくれるかが心配」という自治会の懸念を聞いて始めた取り組みです。「踊るのが当然。だって楽しいんだもの」という気持ちを強く持った人が数人いると、引き寄せられるように人が連なり、輪ができていきます。今年は盆踊りシンポジウムやウェブで呼び掛け、昨年からの参加の4名(女性3名、男性1名)を含め、のべ約60名の参加がありました。

今年の特徴は、浴衣支援にも協力いただいたジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク (JCDN) が参加してくれたことです。代表の佐東範一さんをはじめ、京都の事務局メンバーや会員ダンサーが全部の会場に来てくれました。JCDNは舞踊アートNPOの草分け的存在。伝統的な民俗芸能を習いに被災地へ永続的に通うことで復興につなげる「習いに行け!東北へ」プロジェクトを模索中で、踊り手ボランティアが最初の取り組みになりました。



7月5日(金)、本年度開催5カ所の自治会の皆さまをお招きして、決起会を開催。

6月13日、6月16日の河北新報紙面上で開催地募集告知を行い、ご応募頂いた中から開催日時・開催意図などさまざまな観点から審査を行い、東松島市赤井柳区、東松島市宮戸、名取市美田園閑上さいかい市場、亘理町公共ゾーン、石巻市不動町の5カ所を選定しました。

決起会では今回開催の5カ所の自治会の方々に河北新報社にご来社頂き、実行委員会との顔合わせや希望するレンタル品の確認、盆踊りで使用する楽曲の確認等を行い、「やりましたよ盆踊り」の開催に向けて一致団結しました。





7/21(日) やりましょう盆踊りシンポジウム

(レポート/与野)

◆開催地: せんだいメディアテーク・1階オープンスクエア ◆時間: 14時~17時30分 ◆来場者数: 約70名

盆踊りがコミュニティ形成にもたらす効果、そして各地の盆踊りを学んだ「やりましょう盆踊りシンポジウム」。

今年新たな取り組みとして、各地の盆踊り支援の前にキックオフイベント「盆踊りシンポジウム」を開催しました。やりましょう盆踊りの活動を広く一般市民に報告し、盆踊り支援の意義を再確認するためです。

内容は①昨年の取り組み報告(スライド上映)②政岡伸洋・東北学院大学教授(民俗学)による基調講演「宮

城県における盆踊りと被災地支援への活用の意義」③パネルディスカッション「地域コミュニティを元気にする盆踊りの力」④2013年開催地の紹介⑤盆踊り練習会、と盛りだくさん。開催地5会場からも自治会役員に参加していただきました。

レンタル備品

椅子/100脚程度、机/2台、音響/一式、ハイチェア/4脚、ハイテーブル/1台、大型プロジェクター/一式、スクリーン/一式

基調講演

政岡教授は、仙台藩が盆踊りを禁止したため宮城県には古い盆踊りがないといわれていることについて、史料をもとに新解釈を提示。「仙台藩領では、人と違う動きで個性を出せる鹿踊りや剣舞が大変盛んだった。お盆の時期には若者がこれらに熱中したために、盆踊りが振るわな

かったのかもしれない。踊りが嫌いなのではなく、むしろ大好きな土地柄だった」と推察した上で、「民俗芸能の存在価値は古さではなく、その時代の人に必要とされているかどうかだ。被災地で盆踊りを希望する動きは、ぜひ支援するべき」と指摘しました。

パネルディスカッション

政岡教授と、昨年のやりましょう盆踊り開催地、南三陸志津川福興名店街の役員・阿部忠彦さん、全国の盆踊りに詳しい安藤正樹・尚綱学院大学准教授が登壇。「世代を超えて誰でも輪に入りやすい盆踊りは、間口が広く、求心力がある」「全国には郡上や西馬音内のように、盆踊りが町を潤す一大観光産業になっている例がある」「宮城県で盆踊りが盛んになり、全国に名をとど

ろかす現代イベントに育つ可能性もある」などの意見が出されました。阿部さんが、昨年「盆踊りなど見たことがない」と戸惑いながら手伝った若者たちが「今年は自分たちで開催したい」と引き継いでくれたことを紹介すると、復興につながるうれしい話題に拍手が沸き起こりました。

盆踊り練習会

支援先5会場で予定されている「七夕おどり」「宮城野盆唄」「大漁おどり(大漁唄い込み&遠島甚句)」「宮戸音頭」「巨理音頭」「相馬盆唄」「炭坑節」の7曲を1時

間強にわたり練習。定禅寺通のケヤキ並木を望む全面ガラス張りの広場には、飛び入り参加の方も加わって大きな踊りの輪ができました。



午後14時に開演。公式ブログやフェイスブックを見て楽しみにして来たという方やメディアテーク利用の方など約70名が訪れました。



「やりましょう盆踊り」実行委員長の金成有造より開催の挨拶をさせて頂き、シンポジウムは幕を開けました。



ご来場の皆さまに「やりましょう盆踊り」の趣旨説明を行い、映像投影により昨年のやりましょう盆踊りの様子を振り返りました。



盆踊りがテーマのシンポジウムは数少ないとあって、幅広い世代の方にご来場頂きました。宮城における盆踊りの歴史や盆踊りの効果に興味津々の様子でした。



政岡伸洋東北学院大学教授。「盆踊りは歴史が長い方がいい訳でもなく、かえって新しい方が根付きやすい」という言葉が印象的な講演でした。



安藤正樹・尚綱学院大学准教授と昨年実施の南三陸志津川福興名店街役員・阿部さんをお招きしてのパネルディスカッション。盆踊りに掛ける思いを確かめ合いました。



シンポジウムの後は安藤准教授と実行委員会による盆踊り練習会がスタート。この日は各自治会の方もお招きし、各地に伝わる盆踊りを練習。



かつて前例のない、メディアテークに広がった盆踊りの輪。参加者の方には法被を着て踊って頂きました。



8/3 (土) 東松島市赤井柳区 (レポート/渡辺)

◆開催地：東松島市赤井柳区地区センター ◆時間：17時～20時 ◆来場者数：約300名

今年最初の開催は、梅雨明けの朗報とともに。 子どもから大人まで300名を超す明るい笑顔が飛び交いました。

本年第一回目の会場となった東松島市赤井柳区。連日降り続いた大雨に開催が危ぶまれましたが、開催当日は晴天となり同時に宮城県に梅雨明け宣言が発表されました。

会場となった柳区地区センター周辺は震災時には1.5mの津波が押し寄せたそうです。開催前は竹林が生い茂っていましたが、櫓を組んで盆踊りの輪が広がるようにと自治会の方々が力を合わせて竹林を伐採して会場を整備したとのこと。大雨で粘土のようにぬかるんだ地面も、皆が楽しく踊れるようにと急遽砂利を敷いて地区の住民をお迎えしました。

開催は17時から。「見よう見まねでも皆で楽しく踊って頂きたい」阿部茂男自治会長のご挨拶に始まり、この地区に伝わる「柳

の目獅子舞」の演舞、子供たちによるフラダンスの披露に続き、盆踊りは「相馬盆唄」「宮城野盆唄」「七夕おどり」が繰り返して踊られました。

会場では屋台や射的、流しそうめん子ども達も心を躍らせ、屋台では焼きそば、焼き鳥、たこ焼き、かき氷、カレーなどバリエーションに富んだメニューが100円・200円で振る舞われ、その美味しさと安さで祭り開始1時間半ですべてが売り切れてしまうほどの盛況ぶりでした。盆踊りの後には参加者全員に配られたビンゴゲーム大会が開かれ、打ち上げ花火とナイアガラ花火で祭りは幕を閉じました。

協賛ブース出展内容

○木下サーカス/協賛下敷き、割引券配布、ポスター掲出 ○第34回世界アマチュア囲碁選手権宮城・仙台大会/チラシ配布、ポスター掲出 ○フェニーチェホーム/うちわ・チラシ配布、ポスター掲出 ○宮城テレビ/うちわ・チラシ・ステッカー配布、ポスター掲出 ○東日本放送/ステッカー配布

レンタル備品

提灯(テント照明でも使用)/一式、テント(事務局2張り除く)/1張り、発電機2.8kVA/2台、音響/一式、櫓/一式、射的/一式、太鼓/1台、照明クリップ付5台

出店内容

○屋台/焼きそば・焼き鳥・豚串・からあげ・たこ焼き・玉こんにゃく・味噌おでん・カレーライス・飲料類・アルコール類・かき氷・流しそうめん ○こども向け雑貨類の販売 ○こども向け射的コーナー ○水ヨーヨーすくい



流しそうめんを楽しむ子供たち。大人気で1時間で売り切れになってしまいました。



盆踊りが始まる前からお祭りを楽しむ方の為に、焼き鳥屋台の方も準備に追われていました。



近隣のお母さん方で子供のおもちゃや雑貨の販売をする屋台。親子連れの方々に人気でした。



今回のお祭り貸出備品の射的コーナーも大人気。みんなが夢中になって遊んでいました。



地域のフラダンスチームも参加。子供たちによるフラダンスで客席に笑顔があふれました。



賑わい始めた会場。家族で訪れた方がほとんどで場内には笑い声が絶えませんでした。



お祭りも終盤に差し掛かり参加者全員でビンゴ大会！子供も大人もみんなで楽しんだ夏のお祭り。



この地域伝統芸能の「柳の目獅子舞」。囃まれた人は厄払いできるそう。演者の方にも笑顔がこぼれていました。



京都・東京・仙台などから参加の踊り手ボランティアの方々。ご協力ありがとうございました。



かほピョンと手を繋ぎ一緒に踊ろうとせがむ子供たち。かほピョンは大人にも子供にも大人気でした。



浴衣で踊る盆踊り。みんなが参加し会場いっぱい広がった盆踊りの輪。



空が暮れ始め、参加者も続々と増え、踊りの輪がどんどん広がっていました。



ラストを飾ったナイアガラ花火。自治会の方々の協力で大いに盛り上がった赤井柳区のお祭りでした。

代表者の言葉



東松島市赤井柳区自治会 会長 阿部 茂男 氏

地域の宝を掘り当てた夏祭り

昨今、「よさこい」の陰に隠れてしまっ、すっかり影が薄くなった盆踊り、懐かしさも手伝ってか予想以上の参加者に役員一同うれい、悲鳴を上げました。

十数年ぶりの盆踊り再開。お年寄りたちが輪の中で踊る姿は、地域に埋もれた宝を掘り当てた気分です。子どもたちの浴衣姿と、見よう見まねで踊る姿には心が癒やされました。ここ数年にない盛り上がりとなり、楽しい夏祭りを過ごすことができました。

地域に残る良い伝統は守りながら、急がずに、町会を構成する地域間の信頼関係を築き上げていきたいと思。この夏祭りにご協力頂いた河北新報グループの方々、横浜市の南中学の生徒さんをはじめ浴衣集めにご協力頂いたの方々、その他関係する皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



8/10 (土) 東松島市宮戸

(レポート/武井)

◆開催地：東松島市宮戸里 81-18 ◆時間：14時45分～20時 ◆来場者数：2,630名

全国の支援を受けて始まった「宮戸夏まつり」。3回目の今年は、4年振りの「宮戸音頭」で再会の喜びを分かち合いました。

宮戸島は松島湾最大の島、震災では島に通じる松ヶ島橋が被災し陸路での交通が遮断され大変な不自由を強いられたそうです。道路の補修も徐々には進んでいる様子ですが2年5カ月も過ぎてまだまだ復旧というには程遠い状況です。

宮戸まつりは本年3回目。宮戸コミュニティセンターが中心になって地区の復興のために全国からの支援を受け開催しています。大道芸・宮戸島太鼓・カラオケ大会・フラダンス・盛大な花火大会など、多彩なプログラムで楽しませていました。屋台も21店舗を数え全品200円均一と充実。宮戸の四ヶ浜対抗屋台合戦等も実施し、来場者の談笑の輪が多数生まれ、屋台村が交流の場として大きく役立っていました。

今年は当企画の支援に加え、宮戸の誰もが知っている「宮戸音頭」を4年振りに踊る事になりました。縄文村歴史資料館前の庭に高く櫓を組み、半円形の通路を往復するような形で久しぶりの盆踊りを楽しんでもらいました。会場には東日本放送のキャラクターぐりりも訪れ、かほピョンも加えみんなで「ぐりり音頭」も踊り、楽しい時間を過ごしました。久しぶりの宮戸音頭は若い人の参加が多く、宮戸に根付いていた踊りである事がよくわかりました。盆踊りの後、盛大な花火が間近に上がり、踊り手ボランティアの方々も芝に寝転がり頭上間近に広がる花火に、都会では得られない楽しさをかみしめているようでした。とても充実した夏まつりでした。

協賛社ブース出展内容

○木下サーカス/協賛下敷き、割引券配布、ポスター掲出 ○第34回世界アマチュア囲碁選手権宮城・仙台大会/チラシ配布、ポスター掲出 ○フェニーチェホーム/うちわ・チラシ配布、ポスター掲出 ○宮城テレビ/うちわ・チラシ・ステッカー配布、ポスター掲出 ○東日本放送/ぐりりが参加し「ぐりり音頭」実演、うちわ配布

レンタル備品

提灯(テント照明でも使用)/一式、テント(事務局2張り除く)/2張り、発電機2.8kVA/3台、音響/一式、櫓/一式、射的/一式、太鼓/1台、4灯式投光機/2台、鉄板焼き機/一式

出店内容

屋台村として21店舗が出店。地元四ヶ浜(大浜・室浜・里浜・月浜)の他、圏外からの出店や築地銀だこ等の有名店も出店もあり充実。キッズランドやポニー乗馬体験も用意され、大人から子供まで楽しめる一大イベントを構成。



会場に至る道路も補修完了に程近く、復興の遅れを実感。宮戸島は、海水浴客で賑わう観光地だった。



旧市民センターは津波で流され、現市民センターは、2011年ボッシュ社よりプレハブを提供された。



会場の海側は、震災で地盤沈下したため、真新しい堤防が嵩上げされており、復旧工事が続いている。



円形広場に櫓を設置するため、舞台を築山の高さまで上げなければならなかった。



フェニーチェホーム様と宮城テレビ様、木下サーカス様とアマチュア囲碁大会様のブースを出展。



遠くは京都、神奈川から駆け付けて下さった踊り手ボランティアの方々も宮戸音頭を練習。



ぐりり音頭のリード役は東日本放送の森アナウンサー。かほピョンも高い櫓に上がり盆踊りを盛り上げました。



ぐりり、かほピョンも登場し、ぐりり音頭からスタート。子供たちは大喜び!



21店舗が出店する屋台村は開場と同時に大賑わい。家族で楽しむ姿が印象的だった。



浴衣を着た子供たちも元気に宮戸音頭を踊り、夏の楽しいひと時を過ごした。



震災後初めて踊る宮戸音頭。40代の方は学校の授業で教わっていたようでよく覚えているとか。



宮戸では若い人の参加が目立った。島から出て行った若者たちも帰ってきてくれたそう。



最後に頭上間近に盛大な打ち上げ花火が。芝に寝転がり花火を見られる贅沢な時間。

代表者の言葉



宮戸夏まつり実行委員会委員長 小野 幸男氏

若者も加わり、大勢で踊った宮戸音頭

この夏最高の天気にも恵まれた宮戸夏まつり。やみしょう盆踊り実行委員会の後押しで本当にすてきな盆踊りを行うことができました。震災から2年が過ぎ、島の人口が減ってきている中、この夏まつりにはみんなが帰ってくるようになりました。普段はない若者もいっぱい参加して、懐かしい「宮戸音頭」を笑顔で踊っている姿が大変印象的でした。震災以来、「大人から子どもまで大勢の参加で踊った盆踊り」と表現できる日が来るとは、夢にも思いませんでした。今回参加した全員が来年、また夏まつりで宮戸音頭を踊ろうと思ったに違いありません。

盆踊りスタッフの皆様には朝6時から準備をして頂き、撤収作業が終わった時は日付が変わっていました。盆踊り実行委員会とはもとより、ご支援ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



8/11 (日) 名取市美田園

(レポート/高田)

◆開催地：名取市美田園 7-1-1 ◆時間：15時～20時 ◆来場者数：約700名

復興仮設店舗での3年ぶりの盆踊り。 再開と再会の笑顔で心がひとつになりました。

東日本大震災で大きな被害を受けた関上地区。一部の店舗が名取市美田園に移り、仮設店舗で「関上さいかい市場」をオープンし、新たな一歩を踏み出しています。震災以降3年ぶりとなった盆踊りは文字通り、再開と再会の笑顔あふれる催しとなりました。

「関上さいかい市場」のある名取市美田園は、仙台空港アクセス線の利便性の良さから、大型のショッピングセンターが次々と進出、多くの住宅が立ち並ぶエリアです。震災時は仙台空港を含め浸水した箇所が多かったとのことですが、着実に復興への道を歩んでいます。今回の盆踊りの開催にあたり、関上さいかい市場振興会の相澤会長は期待の半面、不安もあったといいます。それは、元々自分たちがここで商売をしていたわけではないということ。そして、新しい人たちが移り住む新興住宅地で、また近隣にある仮設住宅の

人々が盆踊りに参加してくれるのだろうかといったものでした。夏祭りは15時から開催。早朝から櫓が組み上げられると、出店用のテントも手際よく立てられます。振興会で準備した屋台から威勢の良い声と煙が上がると、続々と車が駐車場へと吸い込まれていきます。住宅街からは浴衣を来て歩いてくる親子や、近隣からは三世代で集まってくる家族も多く、会場は多くの人で賑わいました。地元の子どもたちによるチアリーディングやよさこいが盆踊りまでのステージを彩ります。そして盆踊りがはじまると大人から子供まで本当に多くの方々が参加し、会場には大きな門が二重に出来るほどでした。「こんなにたくさんの人に来てもらえるとは」。そう話す振興会の相澤会長。関上さいかい市場の方々の笑顔と参加してくれた住民の笑顔はこれからの再開へ希望となったことでしょうか。

協賛社ブース出展内容

○木下サーカス/協賛下敷き、割引券配布、ポスター掲出 ○第34回世界アマチュア囲碁選手権宮城・仙台大会/チラシ配布、ポスター掲出 ○フェニーチェホーム/うちわ・チラシ配布、ポスター掲出 ○宮城テレビ/うちわ・チラシ・ステッカー配布、ポスター掲出 ○東日本放送/うちわ配布 ○尚絅学院大学/仮設住宅で制作した復興応援グッズ

レンタル備品

提灯(テント照明でも使用)/一式、テント(事務局2張り除く)/2張り、発電機2.8kVA/3台、音響/一式、櫓/一式、綿菓子機/一式、太鼓/1台、4灯式投光機/2台、鉄板焼き機/一式、射的/一式、水ヨーヨー/一式、スーパーボール/一式、輪投げ/一式

出店内容

焼きそば、焼鳥、かき氷から地元名産の笹かまぼこや地元名物など。飲み物はビール、カクテルをはじめソフトドリンクも販売。



佐々木名取市長のご挨拶から盆踊りがスタートしました。



尚絅学院大学の生徒さんたちによるチャリティグッズ販売も好評。復興支援に役立てられるとの事。



地元の子供たちによるチアリーディング。マルモリダンスなど様々なチアリーディングが踊られました。



全国からご提供いただいた浴衣も多くの方に配布。もちろん盆踊りでも着用して頂きました。



豪華景品を揃えた抽選会。アタリの数も多く、大いに盛り上がりました。



ビンゴ大会も開催。景品争奪のじゃんけんにも大人も子供も一緒になって力が入っていました。



仮設店舗商店街の中央にある駐車場に建てられた櫓の周りには、浴衣を着た多くの人が集まり、盆踊りの輪は二重三重にも広がった。



地元の方による勇壮なすずめ踊りが盆踊りを盛り上げました。



若者たちによる躍動感のあるYOSAKOIもお客さんを沸かせました。



来場者の中から、関上の踊り上手の年配女性を見つけてもらい、即席の踊り方講習会。20、30人が後ろについて習いました。



盆踊りがはじまり、あっという間に大きな輪が出来ました。踊り始めたら30分以上続く絶え間ない盆踊りでした。



浴衣を着た多くの子供たちも盆踊りに参加。中高生の参加が多いのも印象的でした。



文字通り再開と再会を誓った盆踊りとなりました。

代表者の言葉



関上さいかい市場振興会 会長 相澤 信幸 氏

移転する日まで地域の交流の場に

「関上さいかい市場」がある名取市美田園地区は、いろいろな方が移り住む新しい街であり、周辺には仮設住宅もあり、また高齢者の方が入居する施設も目の前にあります。3年ぶりの盆踊りでしたが、仮設住宅や周辺にお住まいの方々を中心に大勢参加いただき、支援の浴衣を着て踊った相馬盆唄は笛太鼓が鳴り響き、踊りの輪がどんどん大きくなり、笑顔、笑顔の盆踊りとなりました。

今回の「やりましょう盆踊り」がこの街でできたことには大きな意味がありました。仮設商店街の私たちは、いつの日か、この街を出て行かなければなりません。その時まで、この地域の皆様と共に協力し、交流の場として「関上さいかい市場」を利用していただければと願っています。やりましょう盆踊りの企画、ご支援に対して心から感謝申し上げます。



8/16 (金) 巨理町公共ゾーン仮設住宅 (レポート/小川)

◆開催地：巨理郡巨理町字悠里1 ◆時間：16時～20時30分 ◆来場者数：約800名

約1,400人が暮らす仮設住宅敷地内での開催。 「踊ろう！明日の笑顔のために！」と会場に大きな輪が広がりました。

ここ「巨理町公共ゾーン仮設住宅」は宮城県南部エリア最大の仮設住宅群で、総戸数約460戸・巨理町沿岸域の被災者約1,400人が生活しています。

震災前、例年荒浜と吉田浜で開催していた夏祭りの復活、そして住民同士の連携強化を目的に「踊ろう！明日の笑顔のために！」のキャッチフレーズのもと、祭りは開催されました。

この日は午後から薄曇りの天気。夕方から雨の予報もあり時折空を見上げて雲の様子を伺いつつ、子供たちによる手づくりおみこしで祭りは幕を開けました。

焼きそば、焼き鳥、駄菓子、かき氷、綿あめなどの屋台をはじめ、占い鑑定や射的、輪投げなどバラエティに富んだ出店が好評。

特に「仙台ビューティーアート専門学校」の学生さん達によるボディペインティング体験は子供たちの目を輝かせていました。

カラオケ大会の途中、巨理町周辺に緊急大雨警報が発令され、安全を考慮して一時的に祭りは中断となったものの、会場には小粒の雨が降っただけですぐに再開。会場の熱気が雨雲を散らしたかのようでした。

盆踊りは巨理の四季と名物を歌詞にした「巨理音頭」、そして「相馬盆唄」が行われ、巨理の広い空の下、二重・三重もの踊りの輪が広がりました。「踊ろう！明日の笑顔のために！」その言葉通り、多くの笑顔が印象的な一夜でした。

協賛社ブース出展内容

○木下サーカス/VTR映像、協賛下敷き、割引券配布、ポスター掲出 ○第34回世界アマチュア囲碁選手権宮城・仙台大会/チラシ配布、ポスター掲出 ○フェニーチェホーム/うちわ・チラシ配布、ポスター掲出 ○仙台ビューティーアート専門学校/ボディペインティング体験ブース ○宮城テレビ/うちわ・チラシ・ステッカー配布、ポスター掲出 ○東日本放送/うちわ配布 ○シマ商会/うちわ配布

レンタル備品

提灯(テント照明でも使用)/一式、テント(事務局2張り除く)/4張り、発電機2.8kVA/3台、音響一式、櫓一式、射的一式、綿菓子機一式、太鼓/1台、4灯式投光機/2台、アイスボックス一式、かき氷一式、スーパーボール一式、輪投げ一式/椅子30脚、テーブル/5脚

出店内容

○屋台/わた菓子、かき氷、焼き鳥、金魚すくい、フランクフルト、焼きそば、缶ビール、駄菓子、ソフトドリンク等



全国から集められた浴衣のうち女性用90枚・男性用10枚を抽選で配布。抽選の場には長蛇の列が。



カップが愛らしい、子供たちによる手づくりおみこし。敷地内を練り歩き、祭りへの参加を呼びかけた。



緊急大雨警報が発令され、祭りは一旦中断されたが会場周辺は小雨が降っただけですぐに再開された。



ミニミニコンサートでは地元の方による演奏会が開かれ、夜空に美しい音色が広がった。



カラオケ大会も実施。巨理町では日本テレビ24時間TV「愛は地球を救う」の収録もあった。



「巨理音頭で踊ろじゃないか」。踊りの輪は二重三重に広がり、大人も子供も大きな笑顔の輪が広がった。



仙台ビューティーアート専門学校の学生さん達によるボディペインティング無料体験は子供を中心に大盛況。祭り気分をさらに盛り上げる美しいペイントに大喜びであった。



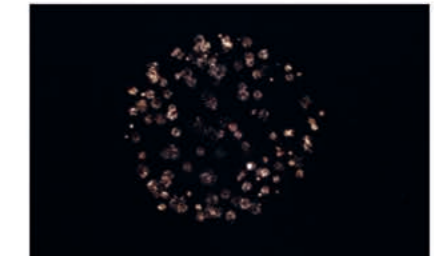
全国から集った踊り手ボランティアの方々と巨理町の方々。



「踊ろう！明日の笑顔のために！」



巨理の広い夜空の下で、仮設住宅にお住まいの方をはじめ、実に多くの方が盆踊りを楽しんでいた。



祭りの最後には花火が打ち上げられた。夜空に幾つもの大輪の花が咲いたかのようだった。

代表者の言葉



巨理町公共ゾーン「ふれあいの会」運営委員長 木村 一行氏

キラキラ輝く心で自立を、再建を

被災から2回目となる今年の盆踊り大会は、河北新報グループをはじめ、各スポンサー企業、支援団体、ボランティアの皆さん、それに地域の皆さん、仮設住宅住民のスタッフの皆さんの支援と協力の下、盛大に開催することができました。本当にありがとうございました。

盆踊り大会には、多くの住民と地域の方々が増べ約800名と大勢集い、踊りの輪、笑顔の輪、子どもたちの喜びの輪が、会場いっぱい咲き、楽しいひとときを過ごすことができました。大会の締めくくりは夏の夜空を彩る花火で飾りました。

この花火と笑顔のようにそれぞれが、これからの近い未来、遠い未来の、自立と再建とふると再生に向かって、いつまでもいつまでも、キラキラと輝く心を持っていてほしいと願っています。



8/18 (日) 石巻市不動町

(レポート/桜井)

◆開催地：石巻市不動町2-16-1 ◆時間：16時～20時 ◆来場者数：約200名

本年度の締めくくりは、暑さも和らぐ爽やかな海風が吹く中で、夏祭り開催の強い意気込みが伝わったお祭りでした。

本年度のやましろ盆踊りを締めくくる会場となった石巻市不動町。当日は連日続いた残暑の中での開催となったがあたりは海風が吹く、絶好の盆踊り日和でした。会長のお話では会場となった石巻市不動町町内会周辺は震災時には約1mの津波が押し寄せて大きな被害を受けたとのことでした。

祭りの開始は16時から。「地域の皆さんの力を合わせましょう」阿部副会長の力強い挨拶で盆踊りが始まり、牛の衣装に身を包んだ町内会長夫人「モウひろみ」さんのダンス披露などがありました。地元の歌手「今野あさみ」さんのミニコンサートが盆踊りの間に2回開催され、盛大な拍手が送られました。盆踊りには地元の踊り手さん達が揃いの浴衣で多数参加し、

地元独特の「大漁おどり(大漁唄い込み案 & 遠島甚句)」「炭抗節」「相馬盆唄」「スタコラ音頭」が繰り返し踊られました。津波で流され、亡くなった娘さんの遺影を胸に、櫓の上で熱く太鼓を叩いて下さった女性の思いが伝わる盆踊りでした。

会場では輪投げや射的などに子供たちの楽しそうな声があふれ、屋台では名物・石巻焼きそば、焼き鳥、いか焼き、かき氷などバリエーションに富んだメニューが100～500円で振る舞われ、とても喜ばれていました。合計4回の盆踊りの後には、成績優秀者表彰が行われ、受賞者はもちろん参加賞もあり、たくさん笑顔があふれました。最後に地元青年団の手により追悼の花火が打ち上げられ祭りは幕を閉じました。

協賛ブース出展内容

○木下サーカス/VTR映像、協賛下敷き、割引券配布、ポスター掲出 ○第34回世界アマチュア囲碁選手権宮城・仙台大会/チラシ配布、ポスター掲出 ○フェニーチェホーム/うちわ・チラシ配布、ポスター掲出 ○宮城テレビ/うちわ・チラシ・ステッカー配布、ポスター掲出 ○東日本放送/うちわ配布

レンタル備品

提灯(テント照明でも使用)/一式、テント(事務局2張り除く)/1張り、発電機2.8kVA/3台、音響一式、櫓一式、射的一式、太鼓/1台、焼き鳥一式、4灯式投光機/2台、アイスボックス一式、かき氷一式、スーパーボール一式、輪投げ一式

出店内容

○屋台/石巻焼きそば・焼き鳥・いか焼き・いか軟骨・飲料類・缶ビール・日本酒・かき氷 ○子ども向けコーナー/スーパーボール・輪投げ・射的



石巻市不動町の盆踊り会場の設営風景。櫓には大漁旗も掲げられた。



名物・石巻焼きそばをはじめ、屋台にはたくさんの方が集まり、賑わっていた。



笑顔でスーパーボールすくいを楽しむ子供たち。



射的はご家族に大好評。みんな真剣な眼差しで楽しんでいました。



いよいよ盆踊りが始まり、櫓の上にはかほびョンも登場。「かわいい」と歓声が上がりました。



町内会長はビデオを回して記録映像を撮影。ずっとこの日を楽しみにしていたとか。



大人も子供も、笑顔の中にも盆踊り成績優秀者表彰を目指して真剣に踊る姿がありました。地元の方の揃いの浴衣がとても印象的な祭りでした。



櫓に登り盆踊り会場を率先して盛り上げる会長夫人の「モウひろみ」さん。



日もだんだん暮れてきて盆踊りも本番に向けて。かほびョンも今年最後の盆踊りに力が入りました。



力強い太鼓の音で盆踊りの後押しをしてくださった打ち手さん。津波で犠牲になった娘さんに届け、と太鼓を叩いたそうです。



石巻市不動町出身の歌手「今野あさみ」さんが自慢の歌声で会場を盛り上げた。



お揃いの衣装で踊りを先導してくださった渡波民謡愛好会の皆さん。



追悼の花火が地元青年団の手により打ち上げられ、祭りは幕を閉じた。

代表者の言葉



石巻市不動町町内会 会長 大崎 春男氏

盆踊りのように、一緒に一歩ずつ

「主催者側の元気を取り戻したい」という思いで臨んだ今年の夏祭り、やましろ盆踊りのご縁をいただけることになり、心に陽が差し、祭りへの意欲が高まりました。たくさんの支援浴衣と、町外から参加してくださった皆さんのお陰で、祭りの雰囲気も盛り上がりました。どの顔にも笑顔が戻り、汗が光り、追悼花火では涙がキラリ。達成感と感動であらためて心一つになり、皆で同じ方向へと進める気がしました。

それは「盆踊り」そのものです。分からなくても知らなくても、同じ輪の中に入ってみようとする気持ちが大事。入れればいつしか笑顔で前に進んでいる。たまには後ろに下がりますが、一歩一歩と進んでいくのです。一人ではできなくても、力と心を寄せ合って大成功が生まれました。心より感謝申し上げます。



8/21(日) 第33回本町夏まつり (レポート/小野)

◆開催地: 仙台市青葉区本町錦町公園グランド ◆時間: 16時~20時30分 ◆来場者数: 約3,000名

祭の楽しさ・盆踊りの楽しさを改めて実感した今年の集大成。 夏の終わりを惜しむように「さあ、みんなで踊りましょう、盆踊り！」

今年の「やりましたよ盆踊り」のグランドフィナーレはここ青葉区本町錦町公園グランドが舞台。毎年行われている本町夏まつり(家具の大丸・大村社長が実行委員長)に特別に、やりましたよ盆踊り実行委員会が参加させていただき、今年の開催5地区(東松島市赤井柳区、東松島市宮戸、関上さいかい市場、亘理町公共ゾーン仮設住宅、石巻市不動町)の方々をゲストとしてお招きし盛大に行われました。

当日は澄み渡る夜空に満月が。月明かりに照らされ飛び散る汗もそのままに踊る面々。自分たちが主体の盆踊りと違いここでは気兼ねなく飲んで、食べて、そして踊ってみんな楽しそうでした。「亘理音頭」「宮戸音頭」「大漁唄い込み・遠島甚句」と開催地区の踊りも交え本町錦町公園には大きな盆踊りの輪が何重も出来

上りました。都市部では珍しいビジネス街での開催。会社帰りのサラリーマンや OL さんもお囃子のリズムに乗せられ急遽参戦、祭りを楽しんでいました。

牛串片手に生ビール、山盛りの氷にイチゴシロップたっぷり。夏はいい、まつりはいい、踊り疲れひと休みをしている開催5地区の皆さんは「今年の夏はとても楽しい!最高だ!」と「来年もこれだけ盛り上がれたらいいな」と言っていました。

被災地で開催した自分たちの盆踊り、そして招待を受けた本町の夏まつり。規模こそ違えど心通う仲間と、夏の夜に響く太鼓の音、冷えたビールと彩られた浴衣姿の女性、景気のいい掛け声と輪になり集う踊り手たち、やっぱり夏の盆踊りは心躍る。そんな思いを再認識できた夜でした。

レンタル備品

テント/1張り、発電機 2.8kVA/1台、机/6台、椅子/25脚



夏まつりの開始 1時間以上前より子供たちがあちらこちらで踊りの練習を始めています。



さあ、いよいよ開始!まずは元気にすずめ踊りから。



やりましたよ盆踊り実行委員会を代表して与野より活動報告とお招き頂いた御礼のご挨拶。



本町夏まつり実行委員長・家具の大丸社長大村氏のご挨拶。



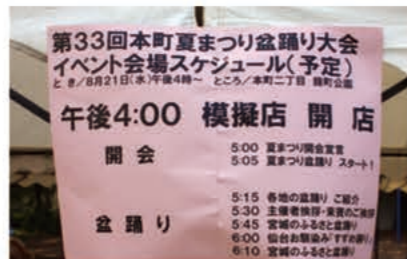
生演奏のお囃子が、祭りの開始を告げます。



屋台では被災地の産直フルーツも販売中、安くて・大きくて・美味しい“もも”。



夏の定番はやっぱりコレ!サクサク氷と果肉入り濃厚シロップの最高のコンビ!



まつりはまだまだ続きます!



お待ちかね、子供たちが一番楽しみにしていたのはもしかして、この参加賞かもしれません。



都市部では珍しい本町の夏まつり、今年で 33 回を迎えるもはや夏の風物詩。大きな檜の上には大太鼓・小太鼓・鼓笛などの生演奏。そして3名の歌手が声高らかに歌い上げます。提灯に明かりがつけばさあ本番の始まりです!



花火の光を見つめる目、きっと素敵な夏の思い出になるでしょうね。



夏休み期間に友達に会えるのも、夏まつりの魅力の一つ。「久しぶり、元気だった?」



見よう見まねで大人に付いて回る子供たちのしぐさは、実に愛らしい。



お祭りでがんばった男の子に大きなご褒美です。優秀賞おめでとう!



やっぱり生歌はいいものです。伸びのある歌声が祭り気分を盛り上げます。



夏の夜に響いた相馬盆唄。



凛とした踊りの所作は美しさを越えて、神々しささえ醸し出します。



本町夏まつりに参加された石巻市不動町内会の皆さん。



本町夏まつりに参加された亘理町公共ゾーン仮設住宅の皆さん「今年は素敵な夏です」と喜びの声。

やりました盆踊りキャンペーン広告



・河北新報朝刊 6月13日(木)掲載
モノクロ全5段広告



・河北新報朝刊 6月16日(火)掲載
モノクロ全5段広告

開催希望地募集広告

河北新報朝刊・全5段広告スペースにて6月13日(木)、16日(火)の2回にわたって、本年度の「やりました盆踊り」の開催希望地の募集広告を掲載しました。紙面では「やりました盆踊り」のコンセプトと昨年の紹介、「やりました盆踊りシンポジウム」の開催も併せて告知しました。

やりました盆踊りキャンペーンツール

オリジナルうちわ

今年は祭りの追加アイテムとしてご協賛各社様のロゴをカラーで配した「やりました盆踊り」オリジナルうちわを製作。各会場に約200枚配布し、盆踊りにご来場いただいた方に人気を博した。



オリジナル手ぬぐい

昨年好評だったご協賛各社様のロゴを染めたオリジナル手ぬぐいを製作。各会場に約200枚配布。頭や首に巻いたり多くのご来場の方に使用された。



開催告知広告

河北新報朝刊 7月30日(火)掲載 カラー全15段広告

河北新報朝刊・全15段広告スペースにて、7月30日(火)、本年度の開催告知広告を掲載しました。夕暮れの中、浴衣に身を包んだ子ども達がお祭りに向かう姿をメインビジュアルにし、これから始まる期待感を醸成。開催地5カ所の詳細と併せて、各自治会代表の方の盆踊り開催に寄せる思いを紹介しました。また、7月21日(日)に開催された「やりました盆踊りシンポジウム」の報告も紙面に掲載しました。



開催報告広告

河北新報朝刊 9月11日(水)掲載 カラー全15段広告

河北新報朝刊・全15段広告スペースにて、9月11日(水)、本年度の開催を報告する広告を掲載しました。「やりました盆踊りシンポジウム」、5カ所で開催された「やりました盆踊り」、「本町夏まつり」の様子を写真で紹介。併せて、各自治会代表の方の、盆踊りを開催しての言葉を紹介しました。

ネット広告

河北新報のニュースサイト「KolNet(コルネット)」に8月2日(金)よりの期間、バナー広告を2カ所掲出しました。バナーをクリックすると「やりました盆踊り実行委員会公式 Facebook ページ」にジャンプする仕掛けとしました。



会場設置看板

全会場にご協賛各社様のロゴをレイアウトした会場看板を製作。ご来場いただいた方の目に止まる場所を考慮して各会場で設置。多くの方の関心を集めた。



ポスター

「やりました盆踊り」開催告知のポスターを各会場ごとに制作し、自治会に提供。

Facebook ページによるタイムリーな情報発信

24時間365日、フォロワーにいつでもタイムリーに情報を配信できるFacebookの利点を活かし、「やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ」を6月に開設。

実行委員会による準備風景から開催告知、ボランティア募集の呼び掛けを行い、また、開催期間中には会場からリアルタイムに画像と映像を投稿。フォロワーとなる「いいね!」の獲得は平成25年9月現在で132件。1件の投稿につき平均200人以上の閲覧者を獲得し、最大で900人近い閲覧者を獲得した投稿もあった。

また、昨年開設された「やりましょう盆踊り応援ボランティア東京事務局」のFacebookページでは主に浴衣や草履などの提供の呼び掛け、踊り手ボランティアの募集などを行って頂いた。



やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/yarimashowbonodori>



応援ボランティア東京事務局Facebookページ
<https://www.facebook.com/YarimashouOuen>

公式ブログで報告と詳細情報を発信

河北新報社が運営する地域 SNS「ふらっと」内に、昨年公式ブログページを開設。自治会の方々と打ち合わせの様子や開催した盆踊りの報告などの詳細情報を発信した。



やりましょう盆踊り公式ブログ
<http://flat.kahoku.co.jp/u/bon-odori/>

メディアでの取り上げ



宮城県/
 宮城県復興応援ブログ・ココロプレス

河北新報第2朝刊
 かほピョンこども新聞/
 平成25年9月1日掲載記事



河北新報朝刊 / 8月4日掲載記事



石巻かほく / 8月17日掲載記事